



第2学年 「連立方程式」 中村 大 教諭

「塵劫記」を素材にした連立二元一次方程式の導入の場面の提案でした。既習の一元一次方程式で解く⇒連立二元一次方程式を活用するほうが式に表しやすい、ということを生徒自身が実感することをねらった授業プロセスでした。その日の放課後、教科会では「数量の関係を捉えさせる手立てを考えることでより生徒の思考に沿った提案にしていこう」という話し合いをされたそうです。

素材は生徒の興味をひくものであったが、「問題解決には、新たに学んだ連立二元一次方程式を活用することのよさを生徒自身が感じる必要があるのではないか」など、この素材が生徒の学びに適したものであるかどうか、といった協議が高岡中数学科と他校からの参加者によって熱心に行われました。



新学習指導要領が目指す数学科の目標から授業を描く！

生徒自身が見方・考え方を働かせ立式が可能なプロセスとは、“木(本時)”だけでなく”森(単元)”もしっかり見つけること、加減法の計算指導に軸足を置くのではなく、立式をした後に問題場面の構造を比較し、文脈の構造上の共通性を理解させる等、数量の関係への着眼をさせること等をご指導いただきました。

齊藤一弥学力向上総括専門官による  
指導板書



授業者の声

生徒の課題を分析し、その課題解決のためにどういった単元計画を練り、どのような授業づくりをしていけばよいのか。これまで生徒に付けた力を意識した授業づくりができていたのか…と振り返りました。今後の授業づくりのヒントをたくさん得ることができました。

参会者の声

「単位時間ではなく単元全体を…」ということが印象的でした。今年はこの連立方程式の単元を見直して実践してみようと思います。それとともに、課題を解決するために、日々の授業でどう取り組むか、すでに取り組んでいることと合わせて整理したいです。【大豊町中 山本一香教諭】

高岡中学校では今、「問題文の構造を読み取り、立式できる力」の育成を目指して授業づくりを見直しています。次回は  
**6月14日(木) 13:20~**  
(受付: 13:00~) です!  
ぜひご参加ください!



主体的・対話的で深い学びを実現する 算数・数学の授業づくりを目指して!!